

## 2023年3・1ピキニデー参加の海外代表プロフィール

### アバッカ・アンジャン・マディソン（ロンゲラップ島民代表、マーシャル諸島共和国元上院議員）



第五福竜丸とともに「死の灰」を浴びたロンゲラップ島で、被ばくした島民のたたかいを率いてきた故ジェットン・アンジャン上院議員の娘。父と兄弟にあたるネルソンとジョンの遺志を継ぎ、被ばく者の正義と補償のための支援を訴えてきた。2017年の核兵器禁止条約交渉会議に核被害者代表として参加し、条約成立に向け活躍。アメリカの圧力に屈せず、マーシャル諸島の禁止条約調印・批准をめざして精力的に活動している。ピキニデー集会、原水爆禁止世界大会に何度も参加しているほか、NPTニューヨーク行動にも参加。

### ミカエラ・チェルキエス（NY ピースアクション代表）



2014年から米国の平和と進歩的な外交政策のための運動に従事し、オールバニー大学ピースアクションの学生の時に活動を開始した。シラキュース平和協議会に数年間所属し、特にパレスチナの正義と核軍縮のための啓もう活動に力を注いだ。さらに、米国の軍事費削減やイエメン、イラン、アフガニスタンに対する米国の外交を促進するとりくみにも携わってきた。「平和のためのブルックリン」の新事務局長として、組織の戦略をさらに発展させ、活発な活動家を増やし、ブルックリンの他の地域組織とともに平和と正義の運動を強化しようとしている。

### ライナー・ブラウン（国際平和ビューロー<IPB>前事務局長）



ドイツ文学、歴史、ジャーナリズムを専攻。1982年から平和運動に積極的に参加し、科学者、法律家団体など様々な組織で活動。ドイツの平和運動を代表し、ラムステイン米空軍基地反対キャンペーンや反NATOキャンペーンを組織してきた。2013年9月から国際平和ビューロー（IPB）の共同議長、2019年11月から2022年まで事務局長を務める。2019年世界大会参加後に沖縄を訪問し、現地の米軍基地建設反対運動を激励。2020年世界大会、2022年日本平和大会に参加。

### イ・ジュンキュ（韓国 韓神大学統一平和政策研究院前任研究員）



現在、韓神大学で北朝鮮問題、南北朝鮮関係と国際政治を専門に研究している。2003年から2010年までは、平和ネットワーク（NGO）の政策立案責任者を務めた。2008年から2009年にかけて日本の明治学院大学で研究。核関連問題、南北朝鮮関係、東アジアに関する国際政治についての執筆活動や講演に日本でも引っ張りだこ。世界大会とピキニデー集会にはこれまで何度も参加している。非核平和の東アジアの実現へ、2019年の日韓国際会議、原爆投下を裁く市民法廷のとりくみで、日韓の共同を発展させるために調整役を担っている。

### パク・ハヨン（国際連帯部長） キム・ヘイン（青年メンバー）（平和と統一を拓く人々<SPARK>）



韓国の民主化運動の流れをくむ全国に13の支部を持つ草の根平和団体。青年が多く参加し、米韓同盟反対、韓国被ばく者の聞き取りなど積極的に活動している。日本の青年との交流を楽しみにしている。